

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に復唱し、常に話し合いの場を作り、理念に沿ったケアの取り組みを日々心がけ、努力している。又苑内の目的つく場所に理念を掲示し職員全員で共有している。	事業計画の検討の過程で理念も含め現場職員が一緒になって見直しをするなど、日々の実践と理念が一体となるような取り組みが行われていることが分かります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	苑外に出かけ近隣との交流や地域の行事に参加したり、苑の行事には近隣の方々に参加を呼びかけ、年毎に参加者が増え毎回近隣の子供さんや人々が、楽しみに待って下さるようになってきている。地域の小学中学入学の子供さんに、ポラチアさんに似顔絵を書いて頂き、入学記念に差し上げ喜んで頂き、休日には子供さんが来苑し入居者さんと交流している。職員も毎月ごみ拾いをしている。	地域とのつながりを深めるための取り組みを地道に行っていることが記録等を通じてわかります。近隣の小中学生との日常的な交流が続いていることは注目に値します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来苑して頂き入居者さんとの交流やふれあいの中で、認知症の理解をしてもらう機会を積み重ねてきている。ご家族の認知症介護の相談を受けたり、苑内に講師を招き認知症の対応や相談手続き方法等広く知って頂く機会作りをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員さんには、行政・包括支援センター・民生委員・地区区長や有志・ボランティア・ご家族等の方に参加頂き、2ヶ月に1回開催し情報や意見交換・行事への参加や検食して頂き、評価・助言を受けながら、運営やサービス改善に努めている。欠席委員さんには報告しています。	地域行事の確認や、地域機関の紹介、事業所の近況報告、外部評価結果のお知らせなど、運営推進会議の目的に沿った取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月市担当者に苑の行事や実施内容をお知らせしています。推進会議にほぼ毎回参加して頂き、意見や評価を受けている。不明な事は、其の都度連絡し相談している。	日々の処遇に関する協議から、地域の防災上の協議や連携について、すぐに対応できる体制構築と取り組みが行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施し、身体拘束の重要性を理解し拘束しないケアに取り組んでいる。入居者さんが自由に苑内を移動出来る様に改善し、施錠しないケアに努めている。又拘束しないケアの掲示を苑内にし職員が常に意識するようにしている。	マニュアル等での事業所の対応体制の整備と、事業所内研修会などで日々の実践に活かせるような取り組みが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会の機会を作り 職員に虐待防止の徹底を行っている。苑内にも掲示し、常に意識したケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会の機会を通し学んでいる。個々の入居者様の状況把握を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については ご家族に詳しく説明を行い、不明や疑問があれば納得して頂くまで十分説明し、同意をもらうようにしている。改定時は其の都度説明し理解して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、希望や意見を聞く機会を設けている。又日頃よりご家族の来苑時ご意見を聞く機会を持ち、職員全員で共有し改善すべき点については、日々の介護に活かせる努力をしている。入居者様にもアンケートに答えて意向の把握に努め、ケアの改善に繋げている。	利用者アンケートの定期的な実施や、家族会での意見を丁寧に記録し実践に反映するよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を開催し 意見・提案を聞く機会を作っている。年1回又必要に応じ個別面接し意見を聞き、取り入れる工夫をしている。	職員会議や職員個々との面談を通じて、意見や提案をすくいあげる取り組みが確実に行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の勉強やその他各自勉強出来る機会を与えている。勤務はローテーション制で職員の必要な時に取りやすい職場環境である。又やりがいももてる様に、有資格者には手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づきフランチャイズからの、外部講師派遣による勉強会の開催を行っている。資格やスキルアップの為にセミナー等は回覧し個々の希望で参加、一部補助・手当等の体制もある。研修会参加の希望休暇は優先している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修の機会がある。又他施設の勉強会参加や、職員の交流で意見交換を行い、職員の意識の向上や、自施設のサービス向上・運営の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より何度か苑に来て頂き、環境や職員と馴染みの関係作りをしている。入所後も関りの中から、本人の気持ちを受容し、共感しながら安心して過ごせる雰囲気や、馴染みの生活に近い環境作りに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・ご家族が困っている事についての話を聞き、精神的に安心して貰える関りに努め、希望や要望を受け止め、可能な限りできる対応で信頼して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の希望や要望を聞いたり、本人の状況を把握し、必要なサービスについて家族と話し合い同意を頂いている。受診・買物・理美容等他のサービス利用も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特技や出来る事や希望を把握し、各自が役割を持って意欲的に、共同生活が過ごせるように取り組んでいる。馴染みの料理を教えて頂きながら、共に食事作りをしている。手伝って頂いた事には、感謝の言葉を述べて共同の関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自由に来苑出来るよう時間の制限を作らず、いつでも気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをしている。体調の悪い時や状況によっては、希望で自室に泊まる事も出来、ご本人とご家族と過ごせる場作りをし、苑行事の参加を呼びかけ、ご本人の様子を見て頂いたり、話し合いの機会を持ち、意見や要望を聞いて取り組みに反映している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長く愛用した品を持ち込んで馴染みの環境を作り、懐かしい場所や馴染みの地への外出・ご実家の近くへドライブし、思い出を忘れないようにしている。ご家族との外出も自由に出来、来苑者と居室でも共にゆっくりくつろげるようにしている。毎月ご本人の様子をお知らせしている。	思い出の場所への訪問や知己との交流への支援など、利用者個々の状況に応じた対応がおこなわれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で過ごす時グループで過ごす機会、又個々の状態を配慮し其の時の様子に合わせて支援を行っている。又孤立しないように気配りし、利用者同士の良い関係作りにも工夫に努めている。 (一緒に洗濯物たたみ・将棋)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談、支援出来る体制作りしています。お亡くなりになられたご家族や入院された方との関りも続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報やご本人にアンケートをとり、少しでも希望要望が把握出来る工夫をしている。意思表示の出来る方出来ない方、各自の希望や思いを受けとめられるように、話し合いの場で共有し本人本位の実現に向け努力している。	アセスメントシートや諸記録を通じて、利用者の思いや希望を把握し、ケアに反映させようと細やかに取り組んでいることが分かります。	利用者の発した言葉や態度など、ありのままの状態が分かるような記録の工夫と分析により、更なるステップアップを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や環境希望を教えて頂き、ご本人の意向に沿う事が出来るように努めている。全職員が情報を共有できるよう本人本意の生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の関りの中で、出来る事出来ない事を見極め行って貰う中から、さらに本人の能力や可能性を見つけ、職員間申し送り、其の日の状況を連絡し、情報を共有し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者さんの身体的精神的状況の把握、家族の希望要望を聞き課題分析し、本人家族の意向が反映されるように、チームで話し合いながら介護計画を作成している。本人の体調や意向の変化に伴い、其の都度計画の見直しを行っている。計画は家族の同意を貰い全員で共有している。	ケアマネジメントの手順に沿って、各過程の取り組みが適切に行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自のバイタル食事量水分量、運動レクリエーション外出や体調の変化等、日々の様子を毎日経過記録に記載し、其の日の変化や気づきを職員間共有出来るようにしている。改善すべき点や本人の状況に応じ、話し合いを持ち介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況変化に応じ、家族の希望希望・其の時々生まれる事に、臨機応変な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や催しに出向き、馴染みの行事やお祭りを体験し、元気に参加されていた頃の事を思い出せる機会作りをし、地域とのつながりを感じてもらっている。又地域のボランティアの方々に協力して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医の定期的な往診を受けたり、緊急時や体調の変化に応じその都度受診や相談助言を受けている。健康診断や予防接種も実施している。本人の状態に応じ、専門医等の受診をかかりつけ医・家族と相談しながら行っている。	かかりつけ医による往診のほか、精神科や眼科・歯科・整骨院への受診についても家族との協力のもと柔軟に支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化に対し、看護師に連絡相談し指示を受けたり、直接対応してもらっている。症状に応じ、かかりつけ医への相談調整してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の様子が分かるように入院先に知らせている。入院中の把握とコミュニケーションをとり、医療関係者から情報を貰っている。退院時には病院より情報を貰っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについての苑の方針があり、ターミナルケアの内容・手順が定められており、職員も定期的に勉強会を行い、全職員で方針を共有している。契約時に、ご家族に事業所で出来る事を説明し同意を頂いている。本人の病状に応じケアし、家族の意向や希望を確認しながら、医療関係者との連携を取っている。	利用開始時の契約の中で、看取りに関する確認を行っています。利用者の状態変化の都度、医療機関とも連携をとりながら対応がなされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や講習会に参加し緊急時速やかに対応できるように、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	地域に呼びかけ協力を求め定期的に消防署立会いで、指導を受け訓練を行っている。又苑内で昼夜を想定し自主訓練や、地震津波を想定し避難場所への訓練を行った。スプリンクラー設置済み。非常持ち出し品は、定期的に点検している。国東市よりの防災無線をH23年度設置した。	地域と連携のもとでの防災訓練の実施や、年6回の自主訓練など、前向きに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員参加で、尊厳やプライバシーの勉強会を開催している。入居者に対し優しい言葉掛けや、一人一人に合った対応に心がけ、人格を損ねないようなケアを行なっている。	毎日の申し送りやカンファレンス等の場で、言葉かけが適切であったかどうか検証していることが記録や聞き取りを通じて分かります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の各場合において、本人が選べるように働きかけている。好きな献立を聞いたり、着替えや入浴時着る衣服を選んで貰ったり、レクリエーションの内容を決めて貰ったり、自由に希望を言って貰えるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の1日の流れはあるものの、リビングや自室・玄関の空間や又庭に出たり、苑外散歩・外出等個々の希望に沿った生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師さんに来て頂き、その人に合った髪型にして貰っている。ご家族が散髪にこられる方もいらっしゃいます。着替え・髭剃りや爪きりの支援・希望で化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や下ごしらえ等共にしながら食事作りしている。入所者・職員同じテーブルを囲み家族のような雰囲気作りをして、楽しく食事出来る様にしている。食後役割として食器拭きテーブル拭きをして頂いている。	食事の下ごしらえを職員と共に行ったり、地物の食材を多く用いることで食事の時の話題づくりをしたり、準備から片付けまで家庭的で和やかになるような取り組みが行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量を把握できるように記録している。栄養バランスを考え、馴染みのメニューで献立を立て食事が進むように心がけている。状況に応じた食材で献立を工夫し、水分摂取の確保に好みの飲み物や手作りのゼリー等で工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人一人口腔ケアに呼びかけている。夜間義歯を預かりポリザンで洗浄している。口腔ケアの出来る人は自分でして貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を記録し、個々の排泄パターンをしり、各自声かけや誘導を行っている。普通の着使用し、可能な限り自分で出来る動作をして貰っている。	個別の状態に応じた排泄への支援が行われています。また水分摂取と排泄状態を把握できるように記録上の工夫もみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材で献立をたて便秘予防に水分摂取・体操・廊下歩行を取り組んでいる。排便状況を排泄表に記入し早めの対応が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前後の健康状態を確認しバイタルをとり、チェック表に記録している。基本的に2日に1回の入浴であるが、希望者は毎日でも入浴出来る体制がある。入浴を拒まれる時は強制しないで保清が保てるように配慮している。季節に応じゆず湯・パラ湯等で心身の癒しが出来るようゆっくり楽しんで頂いている。	利用者の希望や、その時の状態に応じた入浴の支援が行われています。声かけや見守りなど個別性に配慮していることも注目すべき点です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・照明・寝具の清潔に気を配っている。シーツは定期的に(週1回)交換し(汚れた時はその都度)天気の良い日は布団干している。本人の希望で馴染みの布団や家具等の使用で安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により看護師の管理のもと、一人一人の薬の内容や用法・用量について全職員で理解し、確実な服薬・状態の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた出来る事で感謝の言葉を述べ出来た喜び充実感を感じて貰える様に働きかけている。得意な歌や踊り食材の準備片付け等で自分の役割や出番がある。新しく出番や楽しみを見つけた方もいらっしゃる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は戸外への散歩買い物等に出かけ地域とのふれあいの機会を持てるように努めている。季節に合わせたドライブ・馴染みの神社仏閣等への参拝や本人の馴染みのある場所への外出の支援をしている。ご家族との外出をされる方もいらっしゃる。	利用者の生活歴や季節感を意識させるような外出の企画と支援が行われています。銀杏ひろいを通じての職員や家族との思い出の確認などは、意義深い活動といえます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は原則として行なっていない。必要なものは家族に了解して貰い立替後日請求している。買い物に同行した折 購入した思いを味わえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑からのお便りに自筆で家族にメッセージを書いて頂いたり、家族へお手紙を書く支援をしている。ご家族からの電話の取次ぎやご本人が電話したい時には電話し安心して貰っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内の壁廊下には季節に合う装飾を施し、入所者さんに四季を感じて頂けるように工夫している。トイレや浴室居室等分かりやすくしている。中庭や玄関には季節の花を植え、天気の良い日は中庭でお茶やおやつを召し上がって頂いて、季節感や気分転換を味わえる空間作りをしている。	共有空間への飾り付けや掲示物には、内部にいても季節感を感じさせる配慮が伺えます。中庭からも季節を感じることができるように花の植栽などにより取り組んでいることが分かります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主にリビングを使用し入所者個々の居心地の良い場所を重視し好きな場所に座れるように配慮している。気の合った入所者さん同士が話せる空間もある。玄関や中庭に椅子を置き個々に応じ過ごせるように場作りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・寝具・ご家族の写真お気に入りの品思い出の品で安心出来る居室作りしている。又身体状況や好みで畳やソファ使用で居心地の良い環境作りをしている。	家具等の物がありすぎると混乱する方や、逆に自宅にいる時と同じ状況を希望する方などへの個別的な対応がなされ、利用者が落ち着いて過ごせるような居室づくりが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーで手摺設置されている。玄関・リビングから中庭へとスロープ手摺設置されており、自由に入出入り出来るようになっている。各自の部屋の入口に写真を張りトイレ・浴室も分かりやすく表示している。屋内から中庭に自由に入出入りできテーブル椅子を配置し自由にゆっくり過ごせるようにしている。暦で月日が確認でき入居者さんが出来る事をして頂きながら可能限り自立した生活が出来るように工夫している。		